

元日本リーグ2年連続得点王！ 元日本代表ストライカー！

松永章 サッカースクール



11+ Hearts
elf hearts Inc.

松永章サッカースクール 指導員ご紹介

Head Coach

松永 章 (まつなが あきら)

生年月日：1948年8月8日(静岡県出身)

最終学歴：早稲田大学

所 属：MTNスポーツ株式会社



資 格

日本サッカー協会公認S級指導者ライセンス
日本体育協会上級(A・B)ライセンス 取得

選手歴

第45回全国高等学校サッカー選手権大会(1996) 優勝
第1回全国高等学校総合体育大会(1996) 優勝
第21回国民体育大会(1966) 優勝
第45回関東大学サッカーリーグ(1971) 優勝(得点王)
日本リーグ 日立製作所サッカー部(1972) 優勝
日本リーグ得点王(1972、73)
天皇杯全国サッカー選手権大会(1973、76) 優勝

代表歴

西ドイツW杯予選(1974)
モントリオールオリンピック予選(1976) ほか

指導歴

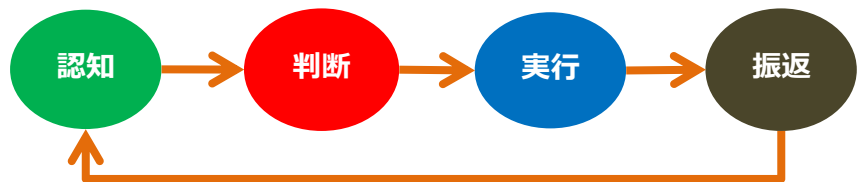
日立サッカースクール、レイソルサッカースクール(全国小学生述べ20万人指導)
平成5年～10年 早稲田大学サッカー部監督(全国優勝3回/関東リーグ優勝1回)
その他 国内外でサッカースクールや1Dayスクールを開催

松永章サッカースクールについて

当スクールでは、MTNスポーツ(株)松永章がこれまでの体験や経験から、子供たちがサッカーを楽しみながら学び、サッカーで仲間を作り、人として成長していくことを目的として指導に取り組んでおります。

またMTNスポーツ(株)と指導を行う(株)エルフハーツでは、バルセロナサッカーアカデミーと行う短期サッカースクールを全国で開催し、バルセロナ式の育成を行ってきました。エルフハーツの指導員も、それぞれが日本・南米・欧州のプロ・セミプロリーグなどでプレーした経験を合わせていますので、その経験を活かし子供たちの能力が最大限に向上するように全力で取り組みます。

基本的な指導方針としては以下のように考えており、子供たちが自分で考え・判断し・実施するチカラをサッカーを通して学んでいくサポートを全力で取り組む考えです。



！瞬で状況が変わるサッカーの中で

「状況を見て考え判断する」

に特化してサポート(コーチング)をします。

松永章サッカースクールの育成目標

当スクールの育成目標は以下のようになります。サッカーを通して子供たちが経験できることを最大限に活用し、サッカー選手としてだけでなく人間形成の部分に良い刺激を与えていきたいと考えます。

※以下はバルセロナ流の指導指針にもつながっています。

1.たくましさ

- ・相手の心を揺さぶるような自己主張を身につける
- ・状況を判断し考えるチカラを身につける
- ・試合に勝つために必要な感情表現を身につける

2.集団の中で輝く

- ・仲間を大切にするチカラを身につける
- ・変化する状況の中、自主的にルールを守るチカラを身につける

3.大人へ成長する

- ・自由に変化する状況の中ルールを守り的確な判断をするチカラを身につける
- ・常にミスが連続する中、向上心を持ち続けるチカラを身につける
- ・常にトレーニング通りにいかない中であらゆる状況に適応するチカラを身につける

スクールの流れ

①元気よく挨拶!!

礼に始まり礼に終わる!

はじめはできなくても少しずつできるように頑張ります!

②ウォーミングアップ

ステップワークやバランストレーニング、ボールタッチを中心に行います。

③本日のトレーニング

テーマに合わせたトレーニングを一人一人の段階に合わせて行います。

※段階に差がある場合は、グループを分けてトレーニングします。

④仕上げのトレーニングマッチ

今日学んだことを実践でどこまで出せるか?

コーチが一人一人にチャレンジしやすいように声掛けします。

またこの紅白戦を分析して、次回のトレーニング内容を修正していきます。

※松永コーチとの対戦も経験できます!

⑤松永コーチより総括

今日のポイントや次回へ向けたアドバイス。

成長し事などを松永コーチから直接子供達へお話しします。

1日を終えて「楽しかった!」「自信がついた!」という形を目指します。



トレーニングのポイントとテーマについて

■スクールのテーマ

1. 基礎技術（ファーストコントロール）
2. 基礎体力（ステップワーク）
3. 基礎戦術（顔を上げる、認知力）

■トレーニングのポイント

- 1、状況に合わせたファーストコントロールができるか？
- 2、リラックスしていい姿勢でステップができるか？
- 3、常に顔を上げて、たくさん顔を動かせるか？



当スクールで大切にしている事

当スクールでは、体の大きさや足の速さには関係なくどんなチームでも活躍できる「サッカーのうまさ」に特化したトレーニングを行っています。

子供たちの経験値に合わせて、基礎的な技術はもちろんですが「見て・考えて・判断する」頭の中のトレーニングや、スペインで研究されているどんなチームのサッカーにも適用する「サッカーの基礎知識」を身につけられます。

経験者も未経験者も1年間トレーニングする事でステップアップしていき、よりサッカーを楽しくプレーできるだけでなく、新しい仲間も沢山できます。

トレーニング後、家に帰った子供たちに「どんなトレーニングだった？」
「何が楽しかった？」とぜひ問いかけてあげてください。その一言で子供がより一層成長するきっかけになります。

ぜひ一緒にサッカーを楽しみましょう！

トレーニングの専門的なご説明

当スクールでは子供の成長段階に合わせてトレーニング内容を構成していきます。現在主流となっているトレーニングには大きく分けると「アナリティカルトレーニング」と「グローバルトレーニング」の2種類ありそれぞれ特性が異なります。当スクールでは海外の指導者と定期的にコミュニケーションを取りながら、各スクールの子供たちの段階に合わせたトレーニングを提供しております。

トレーニングの種類(概略)

	アナリティカルトレーニング	グローバルトレーニング
特性	サッカーの中の1つの要素のみを切り取ってトレーニングする。	仲間、対戦相手、スペースなどサッカーのすべての要素を揃え、よりサッカーに近い状況でトレーニングする。
利点	具体的な目標に向かって、技術的、戦術的、物理的および心理的な要素をそれぞれ繰り返しトレーニングし向上できる。	戦術的、技術的、物理的および心理的な要素が混ざったトレーニングが可能。実際のゲームに近い状況の中で様々な要素を向上できる。
欠点	数ある要素の中の一つに取り組むため実際のゲームよりも低い設定になる。(状況判断などの必要性が低くなる)	ある一つの技術的な要素に絞って向上させることがアナリティカルトレーニングに比べて低くなる。
動機	プレーヤーはやる気が起こりにくい。(同じ動作の繰り返しなので飽きてしまう)	やる気と学ぶ意欲が高くなる。(常に状況が変化の中でアイデアを実行していくので繰り返しがなく、楽しい)
知覚	知覚の向上は最小値。変化の少ない状況なので知覚を改善することはできない。	知覚の向上は最大値。選手はゲーム内で起こる変化に常に注意するようになる。
意思決定	意思決定プロセスはなし。最初から最後まで知っているのでプレーヤー自身で意思決定をしない。	意思決定プロセスは最大値。ボール・チームメイト・相手の動きが常に変化するため、常に意思決定することを必要としプレーヤーの知性が刺激される。
実行	低い質の状況が繰り返される。	より多くの状況が生まれ繰り返しがない。

松永章スクールではこれまでの経験により
子供達の状態に合わせて2種のトレーニングを組み合わせ
考える事、楽しむことを優先しレベルアップを目指します!

日本サッカー協会 功労賞 受賞致しました。



受賞理由
各地域での活動を含めて日本サッカー界において
永年にわたり普及や発展に貢献。

日本サッカー協会100周年
功 勞 表 彰

松永章 殿

あなたは永年にわたり 日本サッカー協会の活動を支え
サッカー界の発展に大きく貢献されました
日本サッカー協会創立100周年を迎えるにあたり
ここに心から感謝の意を表すとともに
その功績をたたえ表彰いたします

2021年9月10日

公益財団法人日本サッカー協会

会 長 田 嶋 幸 三

